福田文彦さん（八枝神社宮司）
住まい手
x 吉野勲さん（創夢舎）
設計
住まい手訪問

1 2 3

Like 0　ポスト

住まい手：福田文彦さん（八枝神社宮司）

つくり手：吉野勲さん（創夢舎）

聞き手：持留ヨハナエリザベート

埼玉県上尾市の荒川にほど近い平方（ひらかた）地区に、樹齢数百年という立派なケヤキやエノキの巨木が林立する、緑豊かな境内が素敵な八枝（やえだ）神社があります。ここは「平方の御獅子(おしし)様」として知られる、悪疫退散に悪疫退散に霊験(れいげん)あらたかな獅子頭があり、かつて近在はもとより遠方の村々にも神輿にかつがれて貸し出されていったそうです。また、担ぎ手が自らも泥だらけになりながら、使われなくなった「隠居神輿」を泥の中に転げまわし、最後は荒川で禊ぎして神社に戻るという「どろいんきょ祭り」で知られ、今でも埼玉県内のみならず、東京方面にも多くの講があります。

うっそうと茂る青葉の葉影に、八枝神社社務所とこちらの宮司である福田文彦さんのご自宅（創夢舎 吉野勲さん設計）をお訪ねしました。

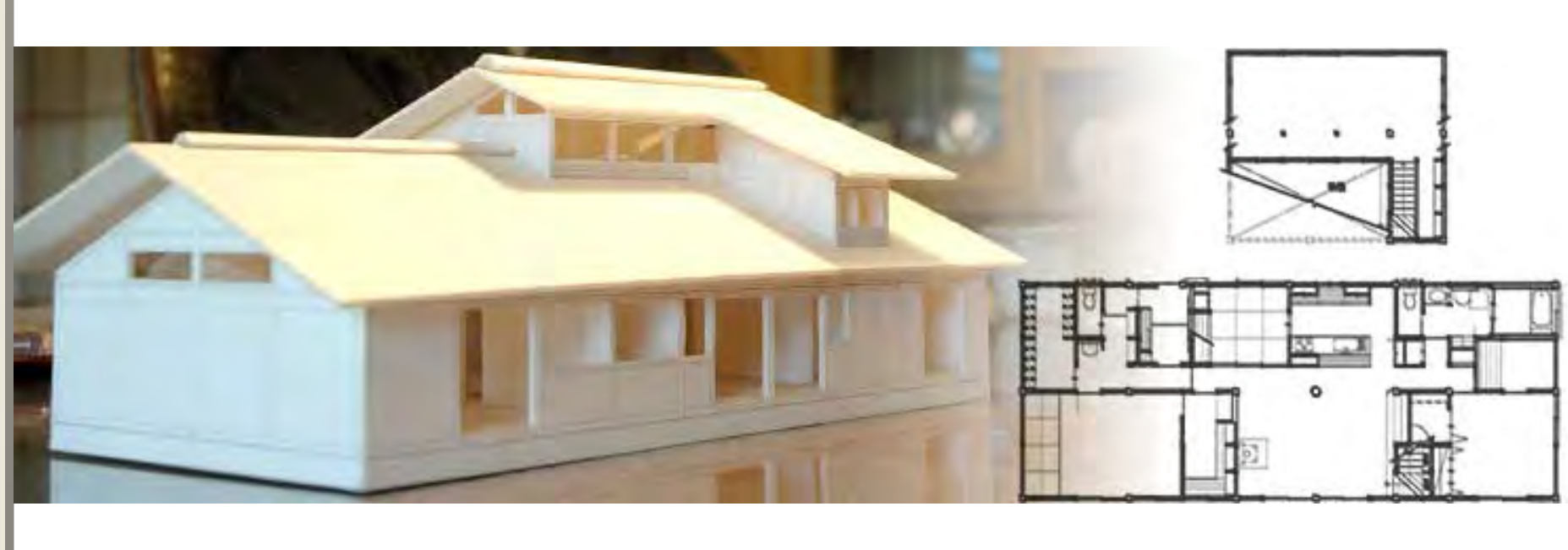
立派なケヤキの木と八枝神社社務所

まずは社務所を新築

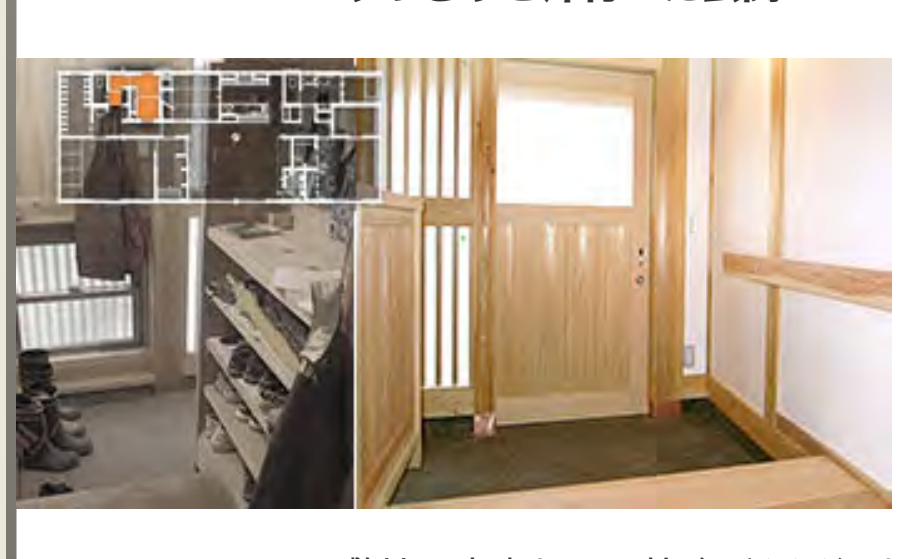
境内の南側にあるこの社務所も、吉野さんの設計で建てられました。高さを低めに抑えた、やわらかいラインの屋根が境内の自然の中に平たく融け込んでいます。福田さん (以下、福)「お寺は構築物である寺院建築が主役ですが、神社はまわりの自然や風景により融け込んだ場所だと思います。社務所はもっと立派でないと、という意見も計画途中にはありましたが、威圧感のあるものをつくりたくなかったので『建物を低くして、ガラス越しに向こう側の風景が透けるようにつくりましょう』という吉野さんのプランには納得がいきました。結果的には神社らしい、自然との一体感のある社務所となり、氏子のみなさんも満足してくださっています」

(福)「40過ぎて父から神社を継ぐ時を迎えるにあたり、当時の社務所が古い小学校の廃材を利用したモルタルを塗りで、床も落ちそうな状況だったのを何とかしたいと思っていたんです。10年前、自宅の設計をお願いするつもりで吉野さんと相談を始めたのですが、話していくうちに『自宅よりまず社務所を』ということになり、先に手がけました。氏子さん方と話し合い、寄付を募った上での普請なので時間はかかりましたが、よい時期によい社務所をつくったと、氏子さんたちも喜んでくださいました。その結果、自宅はようやく３年前に完成と、当初の心づもりよりは大分遅れましたが、社務所を先にしてよかったと思いますし、十分に時間をかけただけの甲斐はありました」

どろいんきょ祭りには大勢の氏子さんたちやお客様が見え、お正月には書き初めの披露もするという広い土間には、たくさんの石が敷き詰められていました。吉野さんの提案で、氏子さんたちと共同作業でつくられたそうです。吉野さん (以下、吉)「集まっての作業なんて面倒、今年は役だからしかたないなどとつい思いがちですが、実際に協働作業すれば楽しいし、自分たちで創ったんだ！という気持ちになれる。建築の過程の中にコミュニティー再生につながる要素をもりこめればと、なるべく心がけています」



すっきりと片付いた玄関



敷地の南寄りに、社務所と平行するようにして自宅があります。玄関に入ると、お子さんが４人いるにしては、随分すっきりと片付いています。その秘密は？　玄関からあがった動線が二つに分かれているからでした。お客様は正面に進みますが、子どもさんたちは玄関の右奥に進み、靴や身支度を収納スペースに納めてから家にあがります。これは奥様の三千代さんのひとつのこだわりでした。三千代さん (以下、三)「こどもたちは学校から帰って来たら、玄関右奥の収納棚にかばんを置き、靴をしまい、帽子をかけるように習慣づけています」　野球の道具、たまに学校にもっていくピアニカ、ランドセル以外に持っていくものがある時の手提げ袋など、始めから定位置が決まっているから、散らからないのです。(福)「仕事柄、お客様も多いので、玄関はいつも清浄に、すっきりとしていないと」　玄関脇にトイレがあるのも、使いやすそうです。

家族がひとつの大きな空間に集える『家族室』

玄関を入って左に進むと、薪ストーブのあるリビング、食堂、キッチン、畳の小部屋がひとつにつながった大きな家族室が広がります。畳の小部屋と台所の上は、ロフト風になった二階子供部屋。リビング、食堂空間の上は、棟のラインまで吹き抜けになっています。

(福)「家族が集う空間は大きくし、細かい部屋はなるべく設けず一体に、というのが私の希望でした」(吉)「家族がくつろぐ空間、ご飯を食べる、ご飯をつくる空間がひとつになった『家族室』として計画しました」　八角形の太い柱が、家族室の空間の中心にあり、ゆるやかにリビングと食堂とを仕切っています。(三)「こどもたちは帰ってきて、ほとんどここにいますね。宿題もダイニングテーブルでするか、そのへんで寝転んでするか、です」　杉の厚板の床はやわらかく、フローリングのように冷たいこともなく、寝転ぶと気持ちがいいのです。

左：いくつもの部屋が一つにつながった家族室　右：ロフト風の二階。障子を開けると家族室の吹き抜けにつながっている

二階の子供部屋の足元にあたる位置には明かり障子が入っています。障子を開ければ、吹き抜けになった家族室とつながるので上と下とで顔を見たり、声をかけあったりすることもできます。(福)「二階に子供部屋という家は多いものですが、階段をあがって個室に入らないと子どもの気配が分からないでしょう？ そうはしたくなかったんです」二階はきょうだい４人まとめての、細長い船のような空間。南北両方に窓があり、南側にはお庭が、北側に社務所と境内が見え、明るさに満ちています。(福)「ひとりずつに個室を与える必要はないと思っているんです。どうしても必要になれば、仕切って３畳ずつの個人コーナーにし、ベットと勉強机を置くぐらいで十分」　障子をあけたところに物干竿がかけられていました。(三)「冬はここに洗濯物を干すと、ストーブからあがってくる熱気であっという間に乾くんです」

家族室南側は開口部いっぱいの大きな掃出し窓になっています。生け垣と低めの木々で植栽されたお庭が全面に見え、北側のうっそうとした境内とはまた違った、明るく、開放的な雰囲気です。掃出し窓の外は濡れ縁になっていて、子どもたちがそこから外に出たり、ご近所の方が立ち寄って腰掛けておしゃべりしたり。(三)「縁側のような使われ方をしてますね」　玄関からの出入りとは違った、カジュアルな関係性がこちらには築かれているようです。(三)「子どもたちがたくさん家に来ている時に『外に出なさ〜い』と声かけると、ここからパーッと出て行きます。濡れ縁に並んで腰掛けてDSやってる時もありますが」　ストーブの薪も、庭の薪置き場から濡れ縁ごしに入れてきて焚いています。

小上がりの畳スペース＆台所

畳の小部屋は家族室から一段上がっており、その下が引き出し収納になっています。部屋の北側の窓越しに社務所が見え、さらに社務所の掃出しのガラス戸の向こうに、境内の緑がすけて見えて「自然との一体感」と福田さんがおっしゃることが実感されます。(福)「社務所に誰か見えても、すぐに分かるんですよ」　これもこのお宅には大事なことです。「ちょっと便利なのが、ここに玄関の郵便受けの取り出し口があること」　なるほど！ちょっとした仕事ができる机がわりの長板が書棚と合わせてつくりつけられているのですが、これも小部屋の段差を活かし、畳のへりに座ると机の下にちょうど足をおろせるようになっています。

小上がりの畳スペースから台所に通じるにじり口を開けたところ

そして、おどろいたことに、この小上がりと東側の台所との間に、人がくぐって通れるだけの高さのにじり口が。(三)「ここが、いいんですよ〜台所仕事が一段落してホッとするとにじり口のところに腰掛けてお茶を飲んだり、畳にゴロンとしたりして、一息つけるのがいいんです」　４人も子どもさんがいると、誰かが風邪で休むことも。(三)「子どもを畳部屋に寝かせ、にじり口をあけておいて台所仕事をしていれば、寝ている子の様子も分かって安心です」

小さいながらも段差をうまく利用しながら多目的に活用されているこの部屋は、夜はご夫婦の寝室になります。もとは家族室の南東にある寝室で家族６人で寝ていたのですが、今はこどもたちが４人で布団を並べて寝るのでいっぱいになってしまい、親２人が畳スペースで寝るようになりました。(福)「障子の東側をあけて寝ると、朝日が入ってきて気持ちいいんですよ」　朝もにじり口からすぐに台所に出られて、お母さんにも便利ですね。

洗面、トイレ、風呂

台所の東にトイレ、洗濯機、洗面所、お風呂場とがまとまっています。家族６人分の洗濯物は大仕事。台所と近いので、家事がひとまとまりにできて便利です。お風呂場からは、外が見えて、とても気持ちよさそうです！

お父さんの趣味ウィング

左：ホビールームのスクリーン。両脇には大きなスピーカーが見える　右上：スクリーンを上げると後ろにはプレイヤーやアンプが。
右下：御影石の上におかれた機材。特注のものも多い。

家族室と子供部屋で完結しているかと思いきや、家の西側には、オーディオや映画鑑賞がご趣味の福田さんが思いを叶えたホビールームがありました。ここだけは入り口はドア、鍵もかけられるようになっています。入ると、AV機器やCD、DVDソフトが整然と並び、奥には部屋の間口近くもある、大きなスクリーンがおりていました。(福)「鍵をつけてはみたんですが、結局はこどもたちがドラえもんを見る時間がいちばん多いですかね」　結婚されて自宅を完成させるまでに10年という長い時間を待っただけに、「自分の趣味の空間をもちたい！」という気持ちは強かったようです。スクリーンをあげると、その奥は御影石が敷かれた床面にアンプとプレイヤー、数セットものスピーカー群が。ショパンのピアノ協奏曲を聞かせていただきました。

レンジの広さとやわらかい音色にうっとり。(福)「木の床にスピーカーを置くと、木や木の下の空間が振動して雑音が混じるので、部屋の４分の１ほどは大きなコンクリート基礎を打った上に御影石の板を敷き、オーディオセットはその上に置きました。木の空間は音がいいです。オーディオ雑誌の取材もあったんですが、取材に来られた方が感心していかれましたよ」　ホビールームの右手の扉の向こうには納戸があり、レコード類がぎっしり。(福)「やはり、CDよりレコードの方が音がいいですから・・・」　(三)「なかなかゆっくり音楽や映画を鑑賞する時間もないんですけれど」　とはいうものの、そうしようと思えばできる空間と環境があるというのは、豊かなこと。それが心の余裕につながりますよね！（うらやましいです）

Like 0　ポスト

1 2 3

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記

大工たちによる「家戻し」の記録

第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2019年6月15日

やさしくて強い、理想の家を求めて: アイ設計研究室 大前泰秀さん

2019年5月15日

磨き上げた職人技で、木を生かす：西岡建築一級建築士事務所　西岡健一さん

2019年4月20日

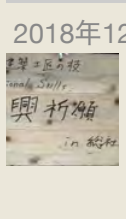
大工と左官の職人プロジェクトチーム 総合建築植田 植田俊彦さん 俊司さん

2019年4月10日

本物の家づくりを、自由に、楽しんで：株式会社木神楽　高橋一浩さん

2019年1月5日

新春特集 2018年のベストショット集

2018年12月29日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part3 大工の声＆今後の課題編

2018年12月17日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part2 実録編

2018年12月14日

板倉仮設住宅 移設ものがたり part1 概要編

2018年9月4日

番匠 剱持工務店 副棟梁・剱持大輔さん

2018年8月15日

鶴岡総会予告 その１　散るより、生き延びよ！

人気のある記事
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
16件のビュー
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
16件のビュー
冬の温熱調査合宿報告
15件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録
14件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
14件のビュー
設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して
11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
9件のビュー
設計士・川端眞さん（川端建築計画）：小さな石場建ての家
9件のビュー

この記事のタグ
住まい手訪問記
木の家の暮らしと子育て
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2015年7月27日
独立電源＝オフグリッドの家

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

福田文彦さん（八枝神社宮司）
住まい手
x 吉野勲さん（創夢舍）
設計
住まい手訪問

1 2 3

まずは、ハウスメーカーの展示場に行ってみた

ご家族の家を建てようとなった時に、まずどうされました？

福田さん　地元の工務店さんに頼むという選択肢もあり得なくはなかったんですが、このあたりの工務店が建てた家を見ていると、南側のいい場所に普段使わない法事のためだけの和室が２つ３つある割に、家族の寝室は北側の日の当たらない所など、今の生活様式に合ってない形になりがちなんですね。で、まずは、ハウスメーカーの展示場に行ってみました。

展示場に行ってみて、どう思われましたか？

福田さん　生活はしやすそうだと思いました。動線がよく考えられていて、合理的に無駄無くできているな、と。しかし、ここまでしなくてもいいのに、というような機能がもりこまれていたり、間取りも今の家族構成には合っていても、将来もそうとは限らないのでは？と思うようなものであったり、応用がきかない感じなのが気になりました。建てる時点でいえば何も考えなくてよくて、手っ取り早くてラクかもしれないですけど、長い目で見れば自由さがないな、と

社務所を北側から見たところ

それで、ハウスメーカーに頼むのはやめたんですか？

福田さん　それにはもうひとつ大きな理由がありましてね。

新建材や集成材を使わない家を建てたかった

福田さん　ハウスメーカーさんの建てる家って、所詮、新建材でしょう？ それがいいとは思えなかったんです。氏子さんが家を新築するとお清めやお祓いの仕事で呼んでいただくことが多いんですが、新築の家に一歩足を踏み入れた瞬間「なんだ、この匂いは！？」とういような家もあるんですよ。新建材のにおいがするし、そもそも空気の流れも悪くて、なんかこう、気持ちよくないんです。実際に住み始めて、体調を壊されるケースも少なくないんですね。新築祝いからほどなくして「何かおかしいから、お祓いに来てくれ」と呼ばれることもありました。

シックハウス症候群ですね。せっかく家を新築してそんなことになったら、悔やまれますよね。

福田さん　もうひとつ、新建材の家は長持ちしない、ということも自分の経験から、分かってたんです。というのは、40年ほど前、私が中学生の時に両親が新築した家が、新建材がでてきた当時に建てた家でしてね。年とともに床のフローリングがふかふかしてきたり、合板に雨がかかってはがれてきたりしてくるんですよ。建てた時が最高で、後は劣化していく一方。味わいがましていくこともないというのを見てきましたからね。

その前は、どのような家だったのですか？

福田さん　無垢の木と漆喰壁の、このへんでは昔ながらの、あたりまえの家です。石の上に柱を置いただけの床下で遊んだ記憶もあります。そういう家はメンテナンスしながら長く住めるんですよね。腐った柱をそこだけ取り替えたりするのなども子どもの頃、見てました。合理的ですよね。ところが、いざ新建材を使わない無垢の木の家を建てたい！とは思っても、ではさて、どこに頼めばいいかとなると、見当もつかないんです。

家は「買う」ものではなく、人生設計をよく考えて「つくる」もの

福田三千代さん

福田さん　ちょうどその頃、家を新築した友人がいましてね。それが昔ながらの無垢材に漆喰の家でありながら、今の生活にも合った「これだ！」というような家だったんです。で「こういう家を建てたいんだけど、誰に相談したらいい？」と尋ねたら「飯能に無垢の木を使った伝統の家づくりにこだわっている吉野さんという方がいますよ」と言われましてね。で、吉野さんの設計事務所へ出かけてみたんです。

設計事務所を訪ねるって、敷居が高くなかったですか？

三千代さん　そうですね。正直に言うと、設計士の方々は芸術家肌で、家は作品という感じかな、好みが合わなかったらどうしよう、という不安はありましたね。

福田さん　新居祝いに伺う家で「ほんとはこうしたくはなかったんだけれど、設計士に言われて」という話を聞くこともありますよ。でも、吉野さんは、最初にお会いして二言、三言、言葉を交わした時から「この方なら」と思いましたね。・・・ところがね、吉野さんはなかなか図面を描いてくれないんですよ。

三千代さん　ハウスメーカーの営業さんなんかは、すぐ描くんですけどね。

福田さん　こんどこそ図面を見せてくれるだろう！と期待して行くんですが、逆にこちらの方が、生活のパターンはどうだとか、今後どういう生活をしたいのかとか、吉野さんにいろいろ訊かれるばかりなんですよ。

吉野さん

吉野さん　建て主さんの希望を100%かなえるつもりだからこそ、そうするんです。

福田さん　今にして思えば、いろいろ訊かれることで、自分たちの人生を考えるんですよね。一体、ぼくらは、これから建てる家でどういう生活をしたいんだろう・・・って。これは新鮮でしたね。ハウスメーカーで「家を買う」のだったら、そこまで考えることはまずないでしょう？　けれど「家を買う」のでなく、「つくろう」とすれば、そうやって積み上げていくほかない、早道はないんです。設計に必要十分な時間をかけ、自分の生活や人生設計をつくっていく。それを面倒ととらえるか、おもしろいととらえるか、そこが分かれ道ですね。

そのプロセスに時間はかかりますけどね。

福田さん　ハウスメーカーの家っておどろくほど短期間に、考える間もなくできてしまうでしょう？　このあいだ地鎮祭で行ったお宅が、もうあと３ヶ月で竣工だというんですよ。図面を見せてもらったんですが、東側にほんのわずかな、細長い窓しかないんです。「これだと朝日が入らないのではないですか？」と尋ねると「そんなこと考えてもみなかった…」とおっしゃるんです。「家を買う」という意識でいると、ほんとは必要なことであっても家づくりの過程であれこれ悩んだり考えたりしないんですね。その結果、後から「ああすればよかった」と思っても、遅いんです。「光の入り方や風の通りをよく考えられた方がいいですよ」と、その方には申し上げましたが。

そんな具合に、よく考えず、てっとりばやく家を買ってしまうケースが多いのかもしれませんね。

福田さん　吉野さんと出会って、新居に入居するまで、10年。長かったですが、想像をはるかに越えたいい家ができて、満足しています。設計士に頼むと、余計にお金を払わなきゃならなって損なのでは？と思う人も多いようですが、問われなければ気づけなかった人生設計を考える機会を得られ、とことん話し合いながらつくられたのはよかったと思います。家は「買う」ものではなく「つくる」ものであるはずです。それぞれのライフスタイルや考え方もありますが、長い目で見れば、十分に考えて、つくった方がよいですよね。

家を家族が集う場となるようにつくる

で、福田さんは、ご自身の人生をふりかえられ、人生設計を考えられた上で、どういう家を望まれたのですか？

福田さん　家相も見ますので、人様の家の図面を拝見することも多いんですが、子どもが生まれていなかったり、まだ小さいうちから６畳や８畳の子どもたちの個室を作る家がかなり多いですね。私自身、家が新築になった中２の時に個室を与えられましてね。当時の自分は嬉しかったのですが、家族と会話しないで済む結果になったんですね。自分が親になってみると、我が子にはそういう子ども時代をおくって欲しくなかったので、子どもに個室を与えることよりも、家が家族の交流の場となることを希望し、なるべくオープンな、家族がひとつところに集うような家を希望しました。子ども部屋として越屋根風の２階をつくりましたが、こもりっきりになることがないように、ロフト、屋根裏的な空間にとどめ、基本は平屋にしたのもそのためです。

で、個室的な用途はできるだけ最小限にされたわけですね。

吉野さん　福田さんがおっしゃるように、子どもたちは個室を与えられると、どうしてもそれぞれにこもってしまいがちになるんです。それよりは、親子全部がそこにいられるような、家族がばらばらにならずにまとまれる部屋を家の中心につくりました。そして、家族の中心のよりどころとして、八角の大黒柱を据えました。洋風にいえば「居間」、昔ながらの日本の家では「お茶の間」と言うのでしょうが、私はこれを「家族室」と呼んでいます。

ご主人がよくいらっしゃる小上がり、お母様がいらっしゃる台所から、つねに家族室に集まっている子どもたちが見えています。特に、福田さんのお宅は４人お子さんがいらっしゃるので、子供部屋を小さくすることで、家族室を大きくとれた面もあります。お子さんたちが成長していけば今はあまり使われていない２階にそれぞれのスペースをつくるようになるでしょうが、そうなっても、家族室を通らなければ、２階にあがる階段にはたどりつかないわけです。家族が集まる場所というだけでなく、親子が出会える動線計画まで含んで、家族室なのです。

家ができてみて、奥様はどうですか？

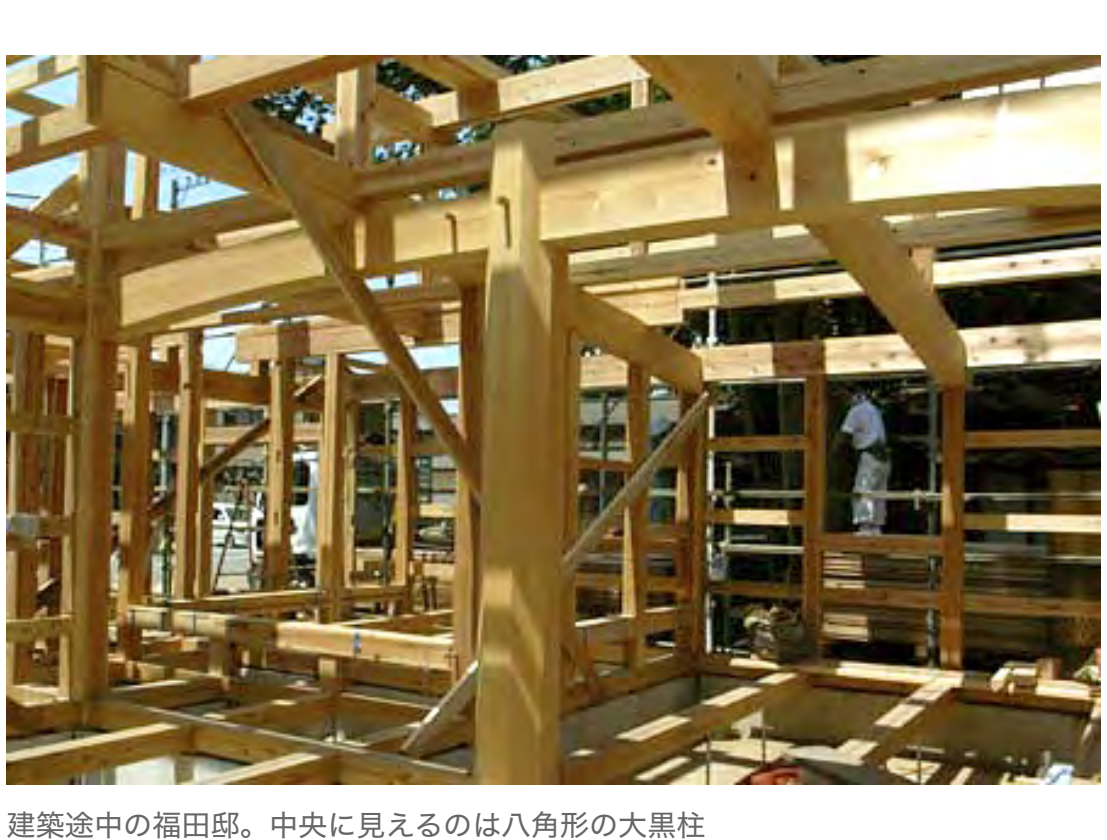
三千代さん　この家に来られる方が「木の香りがする」とおっしゃってくださるんです。住んでいると気づかないんですけれどね。遊びに来た子が服を忘れていったのを返してあげると「木のにおいがする〜」なんて言うんですよ。

自然の中に人がいて 生きた木の家に生きた人が住んで

福田さん　もうひとつ嬉しいのは、この家に私たち家族が住むようになって「いつも誰かしら子どもが遊んでいる」昔の神社の風景が復活したことですね。境内で野球したり、かくれんぼしたりするようになり、家も含めた境内全体が近所の子たちの遊び場になっています。自然があって、その自然の中に人がいて、人と人も交わりの中にいて…。家も外界と内部を遮断するものではなく、つながっているものである方がいいと思います。

そういった感覚は日本の気候風土の中で育まれて来た民族性なのでしょうし、家は本来、そうした感覚にもとづいてつくられるものなのでしょうね。神社で育ってこられたという福田さんだからこそ、そうした生来の感覚を保たれているのかもしれないですね。

福田さん　さきほどの木の香りの話ではありませんが、私にとってはあたりまえの感覚で、考えというほど意識してはいませんけれどね。日本は木の文化であり、生きた無垢の木を使って住まいをつくってきました。にもかかわらず大事な柱や梁にまで集成材を使うのは、あとから割れたり動いたりクレームを未然に防ぎたいからということもあるのでしょうか？「木も生きているのだから」と許容するのではなく「狂いはクレームの対象」ととらえる風潮があり、つくる方もそれをこわがっているようなところがあるように思います。世の中全体が、大らかでなくなってきてるんですね。


建築途中の福田邸。中央に見えるのは八角形の大黒柱

吉野さん　そんなこと言ったら、木の家づくりはクレームだらけですよね（笑）。

福田さん　木は一本一本違う。それは人間も一緒。ひとつひとつの存在が違う。いのちある木の家に、木と一緒に、自然の一部として住んでいる、という感覚がなくなっているんですね。

吉野さん　家は買うものでなくつくるものなんだ、とか、木とはこういう素材なんだということを、学校教育で教えないでしょう？衣食住という大切なことのひとつであるにも関わらず、大きな買物としてしかとらえられないのは、教育の問題もあると思いますよ。そこは取り戻して行かないと。

福田さん　家づくりは買物ではなく、自分の人生がそこにかかることなんだ、どんな家をつくるかで人生の質が、子どもたちの感覚が育つ環境が、決まるんですよ！ということは、伝えていきたいですね。

福田さんのお子さんたちや、遊びに来てる子どもさんたちの中には、すでにそういう感覚が育っていると思いますよ。

1 2 3

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事
2018年3月27日 伝統建築に携わるすべての職人に光を
2018年2月7日 「伝統建築工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ無形文化遺産候補選定のおしらせ
2018年1月2日 新春特別企画 2017年のベストショット
2017年12月14日 第17期木の家ネット総会：倉敷大会 -民家改修と曳家-
2017年10月14日 気候風土適応住宅のチラシができました！
2017年9月4日 家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
2017年8月8日 家にお風呂が入るまで
2017年6月30日 気候風土適応住宅のススメ
2017年6月3日 掛川総会３
2017年5月31日 掛川総会２

人気のある記事
家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ 16件のビュー
伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！ 16件のビュー
冬の温熱調査合宿報告 15件のビュー
大工たちによる「家戻し」の記録 14件のビュー
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記 14件のビュー
設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して 11件のビュー
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌 11件のビュー
工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり 10件のビュー
第11期木の家ネット総会 宮城大会 9件のビュー
設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり 9件のビュー

この記事のタグ
住まい手訪問記
木の家の暮らしと子育て
顔の見える関係

同じタグがついた別の記事
2015年7月27日 独立電源＝オフグリッドの家

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記

大工たちによる「家戻し」の記録

第15期 木の家ネット総会 高知大会 〜会員発表篇〜

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464

福田文彦さん（八枝神社宮司）
住まい手
x 吉野勲さん（創夢舎）
設計
住まい手訪問

1　2　3

Like 0　ポスト

吉野さんに飯能のまちを案内していただきながら、いろいろなお話をうかがいました。

地元に帰っての「まちづくり」が設計者としての使命

吉野さんはどちらのご出身なのですか？

吉野さん　もともと飯能の出身です。大学で建築設計を学んだ後、東京の設計事務所での実務経験を経て、地元、飯能に戻ってきました。東京に出る前は、天覧山に登っては「向こうにきっと何かある！」という気持ちで東京方面を眺めていました。こちらに帰って来てからは、東京を背にして桜山の展望台から、山にいだかれた飯能をよく見るようになりました。その風景を見るたびに、ここには西川材があり、人がいる、この地元に貢献できる仕事をしたい、という思いをあらたにします。

緑につつまれた街、飯能

どんなお気持ちで、地元に帰ってこられましたか？

吉野さん　東京にいた頃に設計者の職能を考える運動に関わったこともあり、地元に帰った私は「設計者である私に何ができるだろうか？」とつねに自分に問いかけていました。その結果たどり着いたのは、設計という仕事を通して地元をよくするために働こう、ということでした。そこで青年会議所に入り、その中でまちづくり勉強会を企画し、建築以外の地元の商店街の店主や経営者と共に、地元をどうしていったらよいかを考えました。このまちづくり勉強会はやがて「飯能フリーステーション」という活動に発展し、環境問題にかかわるドキュメンタリー上映、高層マンション計画を止めるためのトラスト運動、まちづくりにかかわる条例づくり、「天覧山・多峯主（とおのす）の自然を守る会」など、さまざまな活動がそこから花開いていきました。

地元の西川材を使った家づくりに取り組む

吉野さんは木の家づくりに地元の西川材を使うことにこだわっていらっしゃいます。地図を見ても西川という地名は見当たらないのですが、なぜ飯能あたりの山から出る材を西川材と呼ぶのですか？

吉野さん　埼玉県の南西部、荒川支流の入間川・高麗川・越辺川の流域が西川林業地と呼ばれますが、西川という地名はなく、江戸時代、この地方から木材を筏で江戸に流送していたので「江戸の西の川から来る材」という意味で「西川材」と呼ばれるようになりました。

なるほど。吉野さんが西川材を意識されるようになったきっかけは何だっだのでしょうか？

吉野さん　まちづくり活動を通して地元の山林所有者と出会ったことが、地元の山の荒廃している状況を知り、西川材を意識するようになった始まりでした。江戸に木材を供給するのがこの地域の本来の役割であったにもかかわらず、今では、地元飯能での家づくりに西川材が使われなくなっています。

地元の材を使うことで、地域が元気になり、山の荒廃も防げればと思うようになりました。しかし、私だけが西川材を使おう！と思うだけでは、地産地消は広がりません。そこで、一般の方が西川材を知り、山の現状を知る機会となるよう、山や製材所を訪れるイベントをしてきました。また、プロ同士の間で、地元の大工、製材関係者、森林組合とがともに学び、実践する会をたちあげるなど、西川材を使った家づくりの推進にも取り組んできました。最近では地元の自由の森学園で、高校生に土曜講座「森と木の家」の授業を行っています。

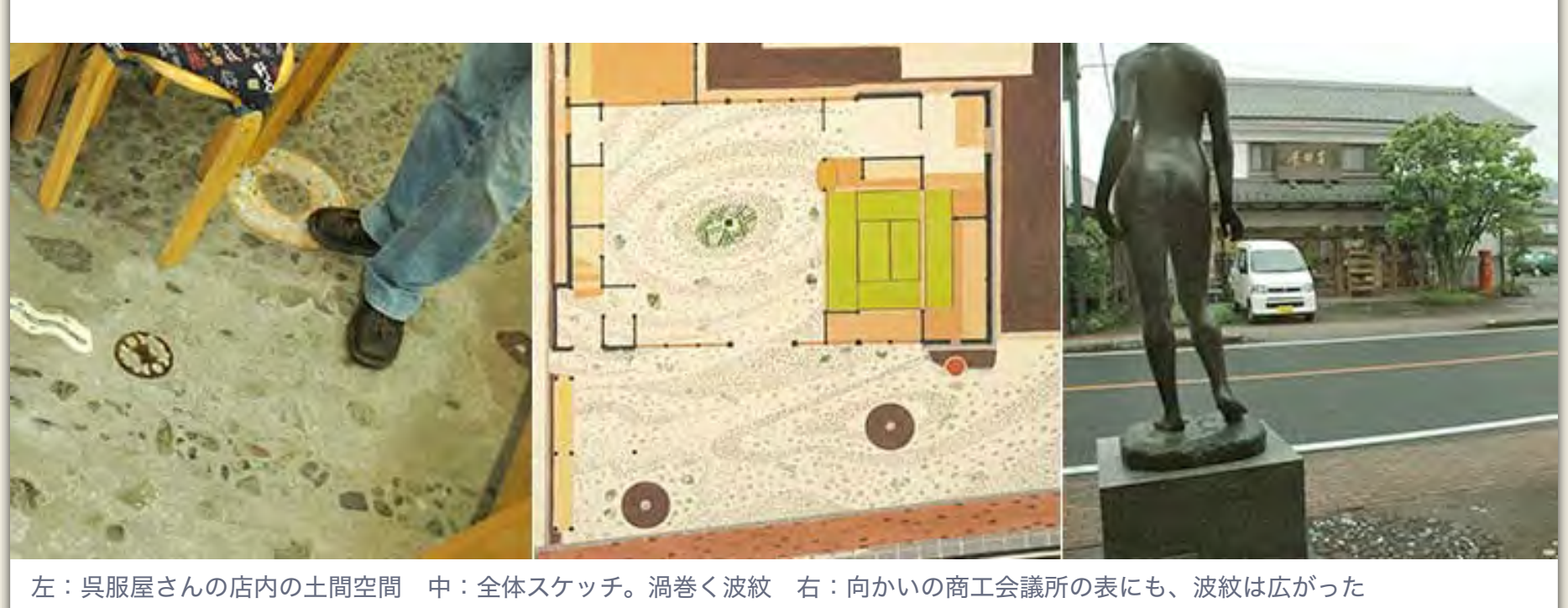
新建材を使わず、無垢の木を使った家づくりへと向かう原点は、まちづくりにあったのですね。

一軒の呉服屋さんでしたことが、
波紋となって広がった

蔵づくりなんですね。

吉野さん　商工会議所の真ん前にあるこの呉服屋さんを新しくつくり直すことになり、店舗をかつて飯能のまちなみを形づくっていた蔵づくりにする事を提案し、実現しました。それだけではなく、地元の石のモザイク作家や陶芸家と話し合い、店先のコンクリート土間に、市民有志との協働作業で石やタイルを敷き詰めて、みんなで大きな絵を描きました。

今、私がいるところは部分なのでよく分からないのですが、これは何の絵ですか？



左：呉服屋さんの店内の土間空間　中：全体スケッチ。渦巻く波紋　右：向かいの商工会議所の表にも、波紋は広がった

吉野さん　これは、床全体を水面に見立てて、店の中央の大黒柱から一滴の水滴が水面に落ちて波紋が広がっている絵になっています。波紋の輪は呉服屋さんの店内だけでなく、店先にも広がっています。そしてこの波紋は、後日、さらに道路向こうの商工会議所の表の地面にまで及ぶことになりました。呉服屋さんの再建を通じて、コミュニティー再生を願った仲間たちの思いは、絵のモチーフと同じように波紋となって広がっていったのです。

こうした楽しい作業をコーディネートする吉野さん、知恵や技を出し合う作家さんたち、そして作業によろこんで参加される有志のみなさんがいて、はじめて実現できることですね。

吉野さん　まちづくりで大事なのは、地元の人的資源を十分に活用することなんです。この波紋がさらに離れた場所にも広がり「この波紋の大元はどこなんだろう」と、興味を持った子どもがこの呉服屋さんに辿りつく日を想像したりすると楽しいですね。

お荷物になっているように見えるものに地元の宝がある

商工会議所の東数軒先にある、蔵を改装した喫茶店にご案内いただきました。

吉野さん　この蔵も、当時は農協の倉庫に貸している状態だったのですが、持ち主のおじさんと、当時、地元の蔵を調査して歩いていた私が言葉を交わしたことがきっかけとなり、お嫁さんがここで喫茶店を始める展開となっていきました。

喫茶 銀河堂

地元に昔からあるものがよい形で生かされましたね。

吉野さん　ポイントは地産地消です。この蔵の例のように、地元のお荷物になっているようなものの中に、もしかしたら、地域の宝があるかもしれないのです。そういったものを探し出すのも、設計者の仕事だと思います。

これが地域の宝だよ、こう活かせるよ！という提案をするということですね。

吉野さん　小さな提案がきっかけとなり、人と人とが結びついていくことで、さびれかけていた蔵の町並みを少しずつ再生していける。コミュニティーアーキテクトをめざす私としては、そんな場面が生まれることが、何よりのよろこびです。町並みに影響を与え、まちの資源の活用にもつながる。そんな家づくりが広がることが、まちづくりにまでつながるのだと思います。

中学生とつくった公衆トイレ

飯能市中央公園の公衆トイレ「あまやどり」

飯能市中央公園の公衆トイレ「あまやどり」にご案内いただきました。日本瓦の切妻屋根の軒下に西川材の太い丸柱が周囲に立ち並び、能仁寺の参道につながるロケーションになじんだ建築です。緑の芝生に面していて、とても気持ちがいいですね。

吉野さん　これも、まちづくり活動のひとつとして手がけました。丸柱と丸柱の間は芝生広場に臨むベンチになっていて、犬の散歩の途中に、あるいはお弁当やおやつを広げての休憩場所として市民に愛用されています。

通常は「暗い、汚い、臭い、危険」の４Kのレッテルを貼られがちなトイレですが、それをいかに魅力的な、市民に愛されるものにするかというのが、私に与えられた課題でした。トイレの個室は安心できるコンクリートで固めた空間にしつつ、個室に至るまでの動線には列柱とトップライトから光を入れ、風が抜けるよう、開放性をもたせるよう工夫しました。換気扇をまわさなくても、臭くないですよ！（笑）

こちらもワークショップ形式でつくられたんですよね？

吉野さん　雨落ちの石並べ、砂利の洗い出しなど、トイレのまわりの外構工事は、多くの市民の手作業でつくりました。参加したのは、飯能市立西中の生徒たちと、伝統の木組みで木の家をつくる住まいとつくり手からなる「素木の会」の仲間たち。ところどころに「ここはぼくが創ったんだ！」という証が潜んでいます。

一時、このトイレにも落書きがされたことがありましたが、それも、トイレが完成してからも定期的にボランティアで掃除に来てくれていた中学生が丁寧に消してくれました。

左：野球ユニフォーム姿で石を置く子どもたち　右：ボランティアで掃除をしている中学生

自分たちで手をかけてつくったものだからこそ、愛着がわく。あたりまえのことですが、まちづくりにとっては大切なことですね。

木の家づくりをしたい人、できる人の裾野を広げる

これまで地元でいろいろな活動をしてこられた吉野さんですが、これからどんなことをしていきたいと思っていらっしゃいますか？

吉野さん　木の家づくりをやっていける職人集団を育てるための「人と木の建築を結ぶ会」という職人さんたちとの勉強会を充実させていきたいです。この勉強会では、なぜ無垢の木の家づくりなのか、どのように実践していくのかをともに学びます。勉強会に来て育った職人さんたちとチームをつくり、各職方が施主と直接契約する「直営工事」方式も、私がコーディネーターとして責任をもてる、車で30分圏内限定で始めています。これまで工務店の「下」にいる立場として、指示を受けて動いていた面のあった各職方が、施主やほかの職方と対等に話し合いながらものづくりする関係性の中で、成長してほしいと考えています。

中には、跡継ぎのない、腕のいい、年輩のひとり親方もいます。そうしたひとり親方が力を発揮し、できればその技術を若い大工に受け継いでいけるような場をつくれたら、とも考えています。ひとつひとつの現場が、技術継承の機会となるようなコーディネートをするのも自分の役目かもしれません。

地元材を使った無垢の木の家づくりの意味をしっかり理解して動けるチームづくりですね。

吉野さん　もう一つは、木の家づくりだけでなく、食や住まいの安心・安全、自然、環境との共生を広く考えるための、一般の人を対象に行う「くらし彩考塾」です。将来的には飯能市のかかげる「森林文化都市」の実現につながっていけば、と期待しています。地球環境、伝統技術の継承、町並み・・・さまざまな角度から、なぜ無垢の木の家づくりがいいのかをともに考え、それを理解できる人が増えていってほしい、というのが、この塾のねらいです。

日本は森林国。だまっていても、木が育つ風土です。これは実は全世界的にみても、とても豊かなことです。それなのに、工業化、石油文明・・・の波の中、「木の家離れ」が進み、木の家づくりをしようにもしにくい状況となっています。ところが、木の家離れの後、ほんとに心地よい空間ができたの？ というとそうでもない。もういちど、なぜ、木の家づくりから離れてきてしまったのか？ どうやったらふたたびそれを手にすることができるのかを考えています。

木の家づくりが広がるには「木の家に住みたい」という人、「木の家をつくれるよ」という人、双方の裾野を広げることが大切です。吉野さんはその両方での人育てをされているんですね。

吉野さん　「100年もつ木の家」を提言している私としては、やがて私がいなくなっても、その仕組みだけは健全にまわっていけるように、取り組んで行きたいと思います。

感想をお寄せください

Like 0　ポスト

1　2　3

「人と木の建築を結ぶ会」でともに学ぶ職人集団で施工する直営の現場。ひとりひとりの職方が明示された看板

新町の木の家をつくる
職方
大工
佐野工務店

木の家イベントカレンダー

最近の特集記事

2016年12月23日
掛川総会

2016年8月2日
込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記

2016年6月21日
熊本震災レポート2

2016年6月9日
大工たちによる「家戻し」の記録

2016年5月21日
熊本震災調査レポート

2016年4月28日
古川 保の熊本市川尻町 震災日誌

2016年3月31日
2/16 衆議院第二議員会館 調査報告会レポート

2016年1月27日
地域型住宅の省エネルギーを探る ～2016.1.17 京都フォラム報告

2016年1月14日
第15期 木の家ネット総会 高知大会 ～会員発表篇～

2015年11月13日
工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

人気のある記事

伊勢神宮遷宮・御杣始祭り：300年の大木を伐る！
16件のビュー

家のお風呂　こうやって作る、こうやって保つ
16件のビュー

冬の温熱調査合宿報告
15件のビュー

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記
14件のビュー

大工たちによる「家戻し」の記録
14件のビュー

設計士・丹羽明人さん(丹羽明人アトリエ)：納得できる答を探して
11件のビュー

古川 保の熊本市川尻町 震災日誌
11件のビュー

工務店・西條正幸さん(ビオプラス西條デザイン)：北海道で無垢の木の家づくり
10件のビュー

第11期木の家ネット総会 宮城大会
9件のビュー

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり
9件のビュー

この記事のタグ

住まい手訪問記

木の家の暮らしと子育て

顔の見える関係

同じタグがついた別の記事

2015年7月27日
独立電源＝オフグリッドの家

関連する記事はこちら

設計士・古川保さん(古川設計室)：木の家づくりは仕組みづくり

込み栓角ノミ 復活！松井鉄工所訪問記

大工たちによる「家戻し」の記録

第15期 木の家ネット総会 高知大会 ～会員発表篇～

工務店・小田貴之さん（オダ工務店）：木の家づくりのプロデューサー

事務局
〒711-0906
岡山県倉敷市児島下の町5丁目7-3
児島舎内
mail： jimukyoku@kino-ie.net
tel： 086-486-5464